

種子の分包の方法（別紙2）

- 1 1袋の種子の量→3～4号鉢に2回播く程度の量にして下さい。それ以上入っていると、（ボランティアが）適量に入れ直しています。その手間が結構大変です。
- 2 分封は多くても10袋までで結構です。それ以上の種子は分封せずに、大袋のまま送って下さい。こちらで分封します。
- 3 分包時に一袋に入れる種子の量（3～4号鉢に2回播く量）はベテランほど少なくなる傾向があります。ベテランは少し多めと感ずる量を、初心の方は少な目であると思ふ量を入れて下さい。（普通の人が適量と感ずる量を基準とします。）
- 4 播種した種子の量が多い場合、発芽数も多くなり、植え替えが大層な手間になります。また、根が絡み合っているのを、切れてしまい、植え替えで枯れる率が高くなります。

→多数発芽してしまった場合には、間引きするほうがよいと思います。ただし、間引きすると、勢いのよいものが残り、発育の悪いものが抜かれてしまいます。一般的に言って、生長が遅いものの中のほうが、園芸的によいものがある可能性があります。
- 5 分包するための種子袋は、同封した用紙を折って作ります。折り方については、説明図と見本を同封しました。端から開いて、折り方を見て下さい。（端は、差し込んであります）用紙が足りない場合は、適当な紙を切って使用して下さい。ただし、チャック付きの小型のポリ袋（ビニール袋）を種子袋として使用してもOKです。
- 6 種子袋の用紙の大きさは、9.5cm×10.5cmを標準にして下さい。A-4の紙のサイズは約21cm×30cmなので、長手方向を1.5cm切り取ってから、長手方向を3等分、短手方向を2等分すれば、この大きさになります。ただし、それほど正確でなくてもかまいません。用紙は厚いと折りにくくなります。見本程度が限度です。薄すぎると、種名等を記入するとき、破れやすくなります。
- 7 折り方は、見本と同封した説明書を見て下さい。
折るときは、最初長手方向を半分に折って下さい。短いほうを半分に折ると、見本とはかなり違った形になってしまい、種名等を記入するのが難しくなります。（形は横長になります。種名等を記載するのが楽です）
- 8 種子の包み方。最初に折って袋を作ります。ただし、最後まで折らず、一方の端を折らないで、そこを広げて種子をすくい入れると楽です。もちろん、折る前に用紙の中央に種子を置いて折っても構いません。種子はなるべく指で、手で、さわらないようにして下さい。指の油がつくと、カビが生え易くなり、カビが生えると発芽しなくなります。（この注意は、種子の採取時から、播種時まで守って下さい。）種子がこぼれでないように、袋の端はきちんと差し込んで下さい。
- 9 記入方法：図を参考にして下さい。種名は正確に記入して下さい。右側には

後で番号を記入するので、図に示した程度、空白にしておいて下さい。提供者名も一袋毎に袋の下部に記入して下さい。

(パソコンとプリンタを使用すると、割に楽に体裁よい記入ができます。印刷位置は現物合わせが楽です。用紙の送り位置を固定し、「印刷のページ設定」で印刷位置をmm単位で変えて、位置合わせします。)

花の色や産地やその他の特徴は、提供リストのほうに種別に記入して下さい。

10 園芸名がついているものから採れた種子を実生しても、園芸名のものとは違った姿形になる場合がほとんどです。その姿を園芸名の草姿と誤ってしまおうと、間違ってしまう。

(私の失敗：ダイヤモンドソウの「滝の白糸」から採れた種子を貰って播き、実生を数人の方に「滝の白糸」と言って差し上げてしまいました。手元に残しておいたものが開花した時、花の姿は「滝の白糸」の面影が少しあるものがありましたが、大部分は全く異なった姿で、原種の花型に近いものがほとんどでした。)

(以上)